
闇再び

ゆき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
闇再び

【Nコード】
N1659X

【作者名】
ゆき

【あらすじ】
ハリポタの子供世代の話。ジニーと共同で行っています。ドーセントとスコープウス視点の話です。

猿とチンパンジー（前書き）

ジニーたち有難う

猿とチンパンジー

ガタン！！！！

「クライド！！！！一体今度は何をしでかしたの！？」真つ黒な髪の毛を黒いリボンで縛った女の子が目をつつた顔で言った。

「別に。何もして無いよ。姉ちゃんこそ何してんだよ。」同じく真つ黒な髪を持つ男の子がイラついた顔で言う。

「じゃあ今の音はなんなのよ！」

「知るか！！！！どうせ姉ちゃんが積み上げた本の塔が崩壊したんだろ。俺のせいにするな。」

「あつホントだ。」あんぐり口をあけた女の子はため息をつき、また分厚い本に視線を移した。

「何か無いのかよ。」クライドはむかついて言った。茶色い目が鋭い。

「なにか？」姉はあたかも何も言っていないかのように弟を見た。

「ドーセット根ちゃんか俺を疑ったんだろ！何とぼけてんだ。」

「何よその言い方は！姉に対しての言葉を改めなさい！！！！」

「やなこつた！数分ぐらいしか違わないだろ！」クライドは大きな音をたてて立ち上がった。

「だからって何よ！それでもあなたの姉なの！貴方が先に出てこなかったのが悪いんでしょ！！！」

「しょうがないじゃないか！姉ちゃんがずうずうしいんだもん！俺はお人よしなんだ！無礼な姉ちゃんとは違ってね！」

「私が無礼ですってえ！！稚拙な野郎の癖に何を言っているの！！！」

ガチャン

「そこのお二人よ。何をしておるのじゃ？」衰えた神父様が言った。銀色の髪の毛をサラサラさせながら言った。「何やら始めて聞

く学校から招待されておる。君達がな。」神父様はかなり分厚い封筒をドーセットに手渡した。

「学校!? 私達が? 意味がわかりません。私達はここで一生を過ごそうと思っていたのですよ! ブラザーやシスターになって。」ドーセットは悲鳴を上げた。

「まあともかく行くのじゃな。いい経験じゃ。ただし、行くと決めたなら、ここはそなたたちが住む場所ではなくなるぞ。しかし、もしクリスチャンのままならば、ここは何時でもそなたたちの家じや。」神父様は優しい笑顔を見せてまた重い木製のドアを開け、帰ってしまった。

「ねえ、手紙貸してよ。俺が読む。」クライドはリンドウ色の目がうつろになつた姉から手紙を引っ張りとりうとした。しかし、俊敏な動きで手紙を振り回した姉、ドーセットは、その場で座って便箋をあけた。「ホグワーツ、、、!?」ドーセットは口をぽかっとあけた。

「ふ、、、ふぐみたい。」クライドは呟いた。

「何か言った?」顔を怒りで真っ赤にしたドーセットがクライドを睨み付けた。

「チンパンジー!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「何ですってえ!!!!!!!!!!」

「チンパンジー」

「猿!」

「ちんぱ」

「さ」

「ち」

「さ」

「ち」

モップを目指せ！……！（前書き）

スリザリン姉弟がポートキーで??????

モップを目指せ！！！！！！

「ああもうこんなんで一日が終わっちゃうじゃない！！！！はああ、じゃあどうする？行く？行かない？どうするの？」ドーセットは嘆いた。部屋の中のありとあらゆる装飾品を蹴散らしてから再び口をあけた。「貴方がなんと言おうと私は行きます！！貴方は貴方の勝手だから自分のことは自分で決めてちょうだい。私はあなたがいやな目にあつたら私が責任取らなければいけないのなら私はクライドに自分のことは自分で責任とってもらいたいから、じぶんできめてください！！！」と何が言いたいのかさっぱり分からないことを言った。

「どうせ姉ちゃんのことだから行かせる気だっただろ・・・。」クライドはぶつぶつ言った。ドーセットは弟に向けたその青い青い目を。クライドの顔にはおびえた表情が見えた。ドーセットをおびえない人は本当のところは居ないのだ。

「自分から行きたいと思っているので僕も行きます！！」クライドは額に手を將軍みたいにあててロボットのように行った。ドーセットはコクリコクリと頷いた。

「はああ。」

「何よそのため息は！！」ドーセットは足でバケツを倒した。

バツシャーーーーーん！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

ツルーーーーーん！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

！！！！！！

ドーセットは躓いて転倒した。クライドはガガハお腹を抱えて大爆笑した。ドーセットの蠟の様な白い手はクライドのがりがりの足を掴んだ。

うわわわあつわwつわわww！！

バツターーーーーーん。(飛蝗ではありません)

クライドは姉と共にビシャビシャの床に転がりまわった。全く似ていない顔をした二人の姉弟は濡れるのも気にせずキャアキャア叫んだ。でも神父様はもう来なかった。

「ねえ、掃除した方が良さそうじゃない?????」

「俺も宗思った。」

「やるか。」二人とも一斉に立ち上がって一本寂しくの置かれたモップをめがけて猛ダツシュした。二人とも同時に掴んだ。しかし、いつもの様にもめる暇なく、モップと二人はぐるぐる回転し始めた。

モックを目撃せ……！！（後書き）

ジニアンドテレサありがとう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1659x/>

闇再び

2011年11月3日17時16分発行